

日本映画放送株式会社 第55番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成29年1月17日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	澤 尚志
編成制作部	樋渡 典英
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題（1）審議事項
時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇
「鬼平外伝 最終章 四度目の女房」について
- （2）報告事項
日本映画専門チャンネル 「総力特集 伊丹十三の映画」について

5. 議題（1）概要

時代劇専門チャンネルが2013年から放送してきた当社初のオリジナル時代劇シリーズ「鬼平外伝」。本家ともいべき中村吉右衛門主演「鬼平犯科帳」が2016年12月にファイナルを迎え、盗賊を主人公に江戸の闇社会の光と陰を描く同じ池波正太郎原作の「鬼平外伝」シリーズも、4K撮影の本作をもって最終作となる。主演は歌舞伎俳優の片岡愛之助で、テレビ時代劇初主演。監督は本シリーズ5作中4作を担当してきた名匠・井上昭。

【審議POINT】

- 「鬼平外伝 最終章 四度目の女房」を、シリーズの他の作品と比較してどう評価するか。
- 5作品で完結した「鬼平外伝」シリーズ全体としてどう評価するか。

6. 議題（1）審議内容

- ・映像の美しさは特筆もので、特にロケーション映像は楽しめた。片岡愛之助の起用も成功している。立ち姿が綺麗で、所作にも普段着物を着慣れている歌舞伎役者ならではの美しさがあった。ただ美し過ぎて、私には大工に見えなかった。
- ・このシリーズは予備知識なしで見ることができ、新規視聴者を取りこみやすかったと思う。また、時代劇は男性寄りの勧善懲悪ものが多いが、このシリーズは男性の気持ちに寄り添う作品と女性の気持ちに寄り添う作品があり、最終作にはその両面があって良かった。愛之助が大工に見えないという意見があったが、指物師や細工物専門の大工だと思えば納得できる。女性視聴者には見ているだけで嬉しいキャスティングだったと思う。
- ・若者や女性視聴層の拡大を狙って作品制作すべきだと以前提案したが、この作品はまさに女性向けで、規視聴者の獲得に貢献したのではないか。
- ・期待値は高かったが、テレビ作品としては凝り過ぎだし、人間ドラマの陰影過多に感じた。テレビは日常生活の一部。軽い気持ちで見られる、わかりやすい作品が向いている。
- ・「鬼平外伝」シリーズは、美術や俳優の演技も良く、風格ある時代劇シリーズで見ていて安心感がある。ただ今回の作品は、実直な大工という表の顔と盗賊という裏の顔を持つ男の二面性や葛藤が上手く出せていないと思った。現代を生きる視聴者へのメッセージもあまり感じられない。ヒロインの在り方にも疑問がないではないが、本作において前田亜季が見せる女優としての成長や魅力はとても楽しめた。
- ・個人的には悪役の仁吉を演じた正名僕蔵のアクの強い演技が印象に残った。しつこさ、いやらしさが効いている。シリーズのなかでは「正月四日の客」が秀逸だと思うが、オリジナル作品全体として打ち出した方が良い。池波、藤沢以外の作家にも挑戦してほしいし、「鬼平」の準主役級を主役に据えたスピンオフをつくっても面白いと思う。
- ・シリーズ最後を飾るに相応しい秀作。チョンマゲを被った現代劇の様な新しい時代劇も良いが、こうした時代劇も私はアリだと思う。ヒロイン前田亜季は芝居上手や存在感のあるベテラン俳優に混じって決して見劣りせず、拮抗できていた。ヒロインの主人公を思う哀切の感が心に残った。今後は一挙放送や、新しいオリジナル時代劇に期待したい。
- ・「鬼平外伝」をチャンネル初のオリジナルドラマシリーズとして高く評価したい。人間ドラマとしてプリミティブだ。だからこそ、豊かな情緒があり、ドラマが濃い。「四度目の女房」はなかでも最も好きな作品。新しいオリジナル時代劇シリーズが待ち遠しい。

〈事業者回答〉

- ・片岡愛之助には4年前にオファーし、ご本人が「四度目の女房」を選んだ。藤原紀香との結婚時期に制作・放送できたことは嬉しい偶然。女性視聴者に喜んでいただけて良かった。「鬼平外伝」シリーズは、中村吉右衛門主演「鬼平犯科帳」の終了に合わせて一区切りつけた。新規オリジナル時代劇については現在ディベロップ中。今年没後20年となる藤沢周平と池波正太郎はやはり重視しているが、新しい時代劇映画のヒットや、新たな時

代小説家の登場もあるので、これまでと違った時代劇の可能性も模索していく。

- ・「鬼平外伝」開始当初の目的のひとつに京都における時代劇制作の伝統継承があった。一定の貢献を果たせたと思っている。今後も「オリジナル時代劇をつくり続けなければいけない」という使命感を持っている。コラボ先を模索し、原作者、出演者、そして視聴者を大切にしつつ、従来以上に力を入れてオリジナル時代劇制作を継続していきたい。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネルでは、80年代日本映画界に新風を吹き込んだ伊丹十三監督作品にスポットを当てた「総力特集 伊丹十三の映画」を企画し、全商業映画監督作品を放送する。また、昨年10月に監督第2作『タンポポ』4Kデジタルリマスター版がアメリカで30年ぶりに公開されたが、ニューヨークの初日舞台挨拶に臨んだ主演女優であり伊丹監督夫人でもある宮本信子を追ったオリジナル番組「タンポポ、ニューヨークへ行」も制作・放送する。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成29年3月21日(火)15時より開催。